様式１

【港南区】令和６年第２回区づくり推進横浜市会議員会議
議事録

開催日時	令和６年６月 11 日（火）　午後３時～午後４時 15 分
場　　所	港南区役所６階　会議室
出 席 者	【座長】　　田野井一雄議員 【議員：４名】山田桂一郎議員、瀬之間康浩議員、安西英俊議員、 みわ智恵美議員 【港南区：36 名】栗原敏也区長、川合裕子副区長、 小林仁担当理事（福祉保健センター長）、 遠藤寛子福祉保健センター担当部長、 松嵜尚紀港南土木事務所長、山口治彦港南消防署長 ほか関係職員
議　　題	令和６年度個性ある区づくり推進費の執行計画について （藤塚総務課長説明）
発 言 の 要　　旨	山田議員：災害に強いまちづくり事業に関連して伺いたい。地域防災拠点において、トイレパックが 5,000 セット、下水道直結型仮設トイレが５基ずつ配備とされているが、港南区内の拠点への配備状況はどうか。 藤塚総務課長：区内全 31 拠点において、トイレパック 5,000 セット、下水道直結型仮設トイレ５基が配備されている。 山田議員：拠点に配備されているトイレパック 5,000 セットは拠点への避難者用であるため、在宅避難においては、平素から自宅にトイレパックの備蓄が必要となる。トイレパックの自宅備蓄の啓発について、どのように行っているのか。 藤塚総務課長：自宅のトイレの水が流せず、使用できなくなるという事態に備え、水や食料と併せて、１人当たり１日５回トイレに行くと想定し、少なくとも３日分のトイレパックも各家庭で備蓄頂くようお願いしている。トイレパックは、ホームセンターやネット販売などで購入することができる。区役所内のサイネージや行政情報スポット等での動画放映、また防災イベント等を通してトイレパックを配付するなど、備蓄の呼びかけを行っている。

	山田議員：下水道直結型仮設トイレについては、災害時に機能発揮するために、どのような啓発を行っているか。 藤塚総務課長：啓発イベントにおいて実際に設置して使い方等を説明したり、広報よこはまにおいて地域防災拠点の機能として紹介するなどしている。また、普段から使い慣れていないと、いざという時に設置が難しくなるため、毎年実施している地域防災拠点の運営訓練において仮設トイレの設置訓練を推奨しており、昨年度は区内半数以上となる 16 拠点で実施している。 山田議員：中学校の吹奏楽部や合唱部が行う、年に一度の卒業記念の定期演奏会について、港南公会堂を利用することはできるのか。 小島地域振興課長：部活動で公会堂を利用することは可能である。横浜市公会堂条例施行規則において、講堂については利用日の６か月前から予約することができる旨が規定されている。ただし、一般利用での枠となると、他の利用者と利用希望日が重複した場合には、申込開始日に抽選となる。 山田議員：抽選になるため、他区に申し込んだり、遠く離れた会場を利用したりという状況になっている。港南公会堂の近くにある中学校でも、年に一度の定期演奏会において公会堂が利用できない状況である。部活動は教育の一環であるのだから、年に一度の定期演奏会を優先予約の対象にしてもらいたい。 小島地域振興課長：小中学校の公会堂の優先利用について、平成 23 年に市民局地域施設課長及び教育委員会事務局指導企画課長の連名で市立小中学校の公会堂利用に関する通知が発出されている。通知の中で、学校行事に該当する場合には優先予約の対象となる旨が記載されている。なお、ここでいう学校行事とは、教育長に学校行事全体計画実施届を提出して実施する行事とされている。 山田議員：ひまわりの郷の利用も多いので、公会堂と併せて中学校の部活動の優先利用の対象にしてほしい。港南区として所管局に申し入れてほしいがどうか。 小島地域振興課長：この通知は一般利用者の枠の確保のための取り扱いと聞いているが、頂いたご意見については所管局へ申し伝える。 山田議員：上永谷在住者から強い要望があったが、上永谷周辺はお年寄りに優しい街に見えないと。買い物には駅前まで出かけないとなら

	ないし、交通もバスのみ。タクシーは料金が高いので度々使えない。今後上永谷周辺のまちづくりをどうしていくのかビジョンを示してほしいとの要望であるが、港南区として、どのような構想を抱いているのか伺いたい。 曽我区政推進課長：上永谷駅周辺は市営バスと神奈中バスが乗り入れており、駅へのアクセスとしてのバス路線は比較的充実しているが、駅から離れた一部の地域において、バス停へのアクセスがしにくいエリアがあることは認識している。日常生活において誰もが移動しやすい環境となるよう、都市整備局と連携して地域に適した身近な移動サービスの充実に向けて検討している。 安西議員：報告事項として、港南区総合庁舎前バス停増設後の効果検証について説明があったが、改めて大事なことだと感じた。利用している地域の方からも喜ばれている。前回の区づくり推進市会議員会議で、路面上に設置したバス待ちの誘導線のメンテナンスについて質問したが、その後テープが剥がれている状況が見受けられる。抜本的な対応が必要と考えるが、どのように考えているのか。 曽我区政推進課長：テープは剝がれやすく、メンテナンスの面で課題があると考えている。剥がれにくく、劣化しにくい材料や方法で対応できないか、交通局と検討していく。 安西議員：交通局としては照明設置にも対応しており、財源の面もあると思うが、区役所からも働きかけて頂き、私どももフォローしていきたいと考えている。バス停の照明については、安価で汎用性のあるものを暫定的に設置していると思うが、劣化した場合には交通局に迅速に対応頂くようお願いしたい。 　ひまわりを活用した区の活力アップについて、港南区のシンボルでもあるひまわりだが、大賀の郷では最近見られなくなっている。その上で、ひまわりを感じられる取組が必要だと感じるが、改めてどのような事業なのか伺いたい。 曽我区政推進課長：まず、局からの予算ではあるが、久良岐公園に大きな花壇を作成し、ひまわりを植える。また土木事務所や公園愛護会と連携・協力しながら、公園愛護会が管理している公園内にひまわりが咲くスポットを約 60 か所作成する。そうした区内のあちこちでひまわりが見られるスポットを作り、区民に紹介すること

	で､ふるさと意識やGREEN×EXPOの機運醸成につなげていきたい。 安西議員：区庁舎や公会堂の公開空地など目立つ場所においても検討して頂きたい。 　あったかデジタル港南推進事業のオンライン法律相談について、現在の状況を教えてほしい。 曽我区政推進課長：毎月１回、各回６枠、１枠 25 分で実施しており、予約は横浜市電子申請・届出システムを使用している。実施の状況だが、６枠埋まることは中々ないが、利用して頂いた方からは好評である。 安西議員：知っていれば利用する人は必ずいると思うので、現場レベルでオンライン法律相談を実施していることを伝えて頂きたい。 　お悔やみ窓口について、鶴見区と瀬谷区でモデル的に行っているが、当該区の区民からは非常に助かったという話を聞いている。港南区はお悔やみ窓口のモデル区ではないが、お亡くなりになった方の手続きに関する相談対応について、港南区として独自に取り組んでいることはあるか。 藤塚総務課長：ご家族がお亡くなりになられた際の主なお手続きをまとめた資料を用意しており、必要な方にお渡ししている。資料には、手続きの際に必要なものや担当窓口等を記載しており、一覧で確認できるようになっている。窓口での対応としては、お客様の状況に併せて声のトーンを変えたり、お困りごとがあればお伺いするなど、お客様のお気持ちに寄り添った丁寧な対応を心がけている。 安西議員：色々な状態のご家族がいると思う。デジタルを活用して効率化が図られる部分もあるが、一方で高齢の方であれば窓口に来た時にデジタルとは真逆の対応が必要となる。来年度以降全区展開されると思うので、港南区独自でも工夫して取り組んでほしい。 　最後に、空き家について、私のところにも陳情や相談を何件か受けている。港南区における相談件数の状況や対応している中での課題について確認したい。 曽我区政推進課長：件数については、空家法が施行された平成 27 年からの９年間の相談件数は 372 件、そのうち昨年度は 49 件である。区としては、現地を調査し、適切な管理がされていない空き家の

	所有者に対して、必要な対策を講じるようお願いしている。ただ、事情により速やかに改善できず、近隣の住環境に影響を及ぼすほど放置されている事例があり課題となっている。空き家の活用や空き家化を未然に防ぐ対策について、建築局と連携して取り組んでいく。 安西議員：民間の部分でなかなか手を出せないところもあると思うが、寄り添っていくことも大事であるので、引き続きお願いしたい。 みわ議員：災害に強いまちづくり事業の地域防災拠点の機能強化について、災害時の課題としてプライバシーの確保や性被害の防止がある。女性の視点からの対策強化について、港南区としての考え方を伺いたい。 藤塚総務課長：今年度はテントを追加で購入し、避難所での授乳や着替えなど、プライベートスペースを確保できるよう取り組んでいる。 みわ議員：先日イタリアでの災害対応を見て、すごいと感じた。テントを追加することはとても助かるが、更なる対策強化をお願いしたい。地域防災拠点運営委員会の女性比率はどうか。 藤塚総務課長：女性比率は把握できていないが、拠点運営においては、女性に配慮したレイアウトを案内する等の工夫を行っている。 みわ議員：いざという時は女性の声も大切であるので、よろしくお願いしたい。福祉避難所について、能登半島地震においては17%しか機能しなかった。港南区では何か所の福祉避難所があるのか。 松月高齢・障害支援課長：令和６年４月１日現在、32か所の福祉避難所と協定を結んでいる。 みわ議員：港南区で要援護者は何人いるか。 松月高齢・障害支援課長：令和６年４月１日現在、約12,000人である。 みわ議員：福祉避難所の開設・運営訓練を実施することはありがたい。職員は大変だと思うが支援をお願いしたい。 　地域で子育て応援事業について、学齢期前の子供への支援を多くやっていただいているのはありがたい。育てにくさを感じる子育て支援事業について、対象年齢はどのくらいか。 富岡こども家庭支援課長：何歳までという対象年齢はないが、子育てに苦慮されている方向けとして、ペアレントトレーニングといった子育てスキル等をお伝えするような講座を開催している。

	みわ議員：ペアレントトレーニングであるので、子育てを始めた方向けということもあると思うが、学校へ行くと小１の壁もあり、新たな悩みや子育ての苦労が出てくる。中学生になると不登校の子のための居場所として、すべての中学校に校内ハートフルが設けられており、子供にも保護者にも頼れる場所になっている。小学校にはないので、居場所づくりを求めているところである。児童相談所まで行かずに、気軽に子供の成長などに関する相談ができる場所があると良い。働き・子育て世代の健康づくり推進事業があるが、健康づくりの場でも気軽に子育ての相談ができる場所を作ることはできないか。 中野福祉保健課長：健康づくりの事業であるが、様々な事業を区で展開しているので、対象者に合わせた相談先の情報が提供できるよう、相談案内チラシの配布等について考えていきたい。 みわ議員：相談できる場所があるとありがたい。よろしくお願いしたい。 ポジティブシニア応援事業について、元気な高齢者への支援も非常に大事である。高齢者は歩いてくださいと言われるが、歩いていると、トイレがないとか、ちょっと休みたいのにベンチがないとか課題がある。健康アクションこうなん５の「あるこう！毎日」でウォーキングマップが 11 月に配布予定ということであるが、トイレやベンチ、給水所についてもマップに掲載されるのか。 中野福祉保健課長：港南区食生活等改善推進員会と協働で作成しているマップの更新であるため、すぐに新しい内容を追加することは難しいが、健康づくりに役立つ情報の掲載について提案するなどし、充実させていきたいと考えている。 みわ議員：是非充実して頂きたい。ベンチの設置等も含め、誰にとってもやさしい、健康づくりにつながるまちづくりを進めてほしい。 運営方針の中の働き方改革の推進について、学校の先生においては人材の確保が難しくなっているが、区においても月の超過勤務 45 時間以内など、数値も含めて働き方改革に取り組んでいるのか。 藤塚総務課長：市全体で長時間労働の是正に取り組んでいる。昨年度の実績を踏まえつつ、各課では業務効率化や業務改善を進め、超過勤務の縮減に取り組んでいる

	みわ議員：デジタル化により働き方改革においても機能するようお願いしたい。 瀬之間議員：災害に強いまちづくり事業の拠点資機材の点検、修繕等について、拠点以外の場所に区独自の倉庫を設置するとあるが、どういうものか。 藤塚総務課長：設置場所は野庭町。丸山台中学校から、舞岡上郷線を野庭方面に向かい、天谷大橋を渡ったあたりの高架下に設置する。 瀬之間議員：防災公用車の導入とあるが、どういったもので何台導入するのか。 藤塚総務課長：防災公用車については、軽自動車のバンタイプを１台導入する。区内には狭い道路が多いため、小回りの利く機動的なものを導入する。 瀬之間議員：能登半島地震から５か月が経った。救援人員として横浜市から被災地に職員が派遣された。港南区としては何名派遣されたのか。 藤塚総務課長：港南区からは 13 人の職員を派遣した。主に避難所運営、罹災証明書発行、被害調査、衛生対策・こころのケアなどの業務に従事した。内訳は係長級が３名、職員が 10 名である。 瀬之間議員：実際に被災地を見た派遣者からどのような意見があったか。 藤塚総務課長：被災地入りした職員の感想としては、築年数の経過した家や、上下水道等のインフラの被害が甚大であり、在宅避難ができない方が多くいたため、避難所には様々な方が避難していた。そのため、避難所におけるプライバシーの確保、特に妊産婦、乳幼児のいる世帯であったり、生ごみ、排泄物による臭い、携帯電話の充電手段の確保等が問題であったと聞いている。また、日頃から住民同士のつながりの強い避難所の方が、トラブルが少なく円滑に運営されていたという意見もあった。 瀬之間議員：派遣者の意見を踏まえ、港南区としてどういった対応を考えているのか。 藤塚総務課長：着替えや授乳などの際にプライバシーが確保できるテントや臭い漏れが少ない防臭袋、手回し式携帯充電器などを購入する予定である。 瀬之間議員：災害時のペット同行避難支援について、避難受付セットを配

	布するとあるが、獣医師会からも避難受付セットを各区に配布するよう要望を受けている。区によって温度差があると聞いている。港南区では４か所とあるが、どのような場所に配布するのか。 荒木生活衛生課長：港南区としても、ペットの一時飼育場所開設キットの配布は、地域防災拠点において困難なくペットを受け入れるために有効だと考えている。今年度の事業においては、試行的に配布を開始する予定である。配布先については、昨年度ペット同行避難訓練を実施した地域防災拠点など、取組が進んでいる拠点に配布し、意見を伺いながら順次進めていきたい。 田野井議員：ペット同行避難については横浜市でガイドラインが策定されているが、港南区では一早くペット同行避難について事業を進めており高く評価したい。ペットを飼う家庭は多く、家族の一員という認識になっている。ペット同行避難訓練については今後も進めてほしい。 　今、日本では少子化が進み、出生率は 1.20 と最低になっている。先日の第２回市会定例会で、横浜市こども・子育て基本条例が議員提案され可決された。この条例では、子供は社会の宝であり、未来を担うのは今を生きる子供たちであるとしており、子供が意見を表明する機会や、社会活動に参画する機会を確保することが重要だとしている。そのためには、学校、家庭、地域が一体となることが大事である。港南区では、こうなん子どもゆめワールドにおいて、それに匹敵する以上の活動を行っている。子ども会では役員のなり手が不足しており、四苦八苦しながら運営している。本日の資料の中で、今年度のゆめワールドでは、誰でも、どこからでも楽しめるメタバース空間の会場を併設するとあるが、具体的にどんなことをするのか。 小島地域振興課長：今年度のこうなん子どもゆめワールドでは、スマートフォンやパソコンを用いて誰もがどこからでも参加できるをテーマに、インターネット上の第二会場をメタバース空間として用意する。昨年度実施したメタバース作品展に加え、縁日で実施されるようなミニゲームコーナーを設ける予定である。ゆめワールドは、子供たちが地域社会や世界に目を向け、幅広い視野や自主性・創造性を育み、健やかに成長できるよう、地域における異世

	代交流や国際交流の場を提供する事業と位置付けている。今回の取組を通じて、様々な事情により外出や会場への来場が難しい方々に対しても地域活動への参加機会を提供していきたいと考えている。 田野井議員：港南区はデジタルモデル区として色々な取り組みをしてきたことについて、私は本当に評価している。これからも港南区が18区を引っ張り、栗原区長を中心にワンチーム港南として、議員団も一緒となって、区民のために明るく元気な港南をつくっていきたい。
備　　考	